

伊賀市へ 既存水源の活用求める署名

伊賀市の新しい水道事業基本計画案をめぐる、市内の住民や団体でつくる「伊賀の水源を守る連絡協議会」は14日、現在利用している水源の保存と最大限活用を求める3152人分の署名を市へ提出した。

3152人分提出 水道事業巡り市民ら

計画案は、市内の12水源・7浄水場を廃止し、川上ダム(建設中)が水源になるゆめが丘浄水場からの給水を広げる内容が柱。提出したのは、連絡協会の奥澤重久代表(68)と、メンバーの北川幸治さん(68)。連絡協会は、地元の水源廃止を知った住民らが昨年12月20日に設立。岡本栄市長と北山太加視・市水道管理者に対し「現在ある水源を最大限活用する案を示して比較し、市民が納得する計画を採用してほしい」と要望

する署名を集めてきた。北川さんは計画案作りのために市側が委嘱した元策定委員。この日は岡本市長は上京中で、山本幸一郎秘書課長が署名を受け取った。



既存水源の活用を求める署名を提出する奥澤重久さん(中央)、北川幸治さん(右) 伊賀市役所

は「今まで通り各地の水源を使い続けてほしい。市は一部の水源を『予備化する』としているが、予備からの復旧策があまりない。予備化という名目の水源放置は許さない」と話している。連絡協会は2月末まで署名活動を展開する。

(中田和宏)